

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社 北村		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	〒839-0223 福岡県みやま市高田町岩津785 TEL 0944-22-6568		
自己評価作成日	令和06年08月08日	評価結果確定日	令和06年09月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	令和06年09月03日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで長年暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に、家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落ち着いた、不安のない心で家庭とのかかわりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の方々との交流を深めながら過ごして頂く。小規模で介護の出来る、明るく、楽しいグループホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みやま市郊外の田園風景が広がる自然豊かな環境の中で、20年前に開設した定員9名の家庭的な雰囲気のグループホームである。敷地内に枇杷やグミ、無花果、杏子等、実のなる木を植え、畑には、胡瓜、そら豆、葱、玉葱等多くの野菜が育ち、花壇には色とりどりの花が咲いて、花摘み、草取り、収穫等で、利用者の日常生活は、季節感に溢れ充実した暮らしの支援に取り組んでいる。提携医療機関医師による往診体制が整い、看護師を3名配置して医療体制の充実を図り、24時間利用者の健康管理に取り組み、看取り支援にも取り組んでいる。畑で収穫した旬の野菜を使って作る手作りの美味しい料理を提供し、踵あげ、歩行、立位訓練等のリハビリに励む毎日が利用者の生き生きとした笑顔を引き出している。毎月送付する利用者の写真を満載したホーム便りやこまめな電話連絡で利用者の暮らしぶりを家族に伝えて家族の安心に繋げ、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている、グループホーム「なかま」である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 目	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナが収束し5類になったので、地域のイキイキサロンに等に参加し始めている又、残暑の為殆ど外出できなくなっている	ホームが目指す理念「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える生活」を玄関や廊下に掲示し、職員は毎日目にすることで理念を共有している。自治会に加入して「いきいきふれあいサロン」に参加する等、地域密着型事業所として認知症高齢者が安心して暮らせるホームを目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組の方にスイカ苗をもらい植えた	隣組との交流が深まり、地域住民の理解を得て、少しずつ地域との関係を築き、新型コロナ5類移行に伴いコロナ状況を判断しながら、地域の行事や活動に参加し、「いきいきふれあいサロン」への参加や中学生の体験学習の受け入れ、近所の方々との日常的な交流を再会し、地域との信頼関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	絵手紙もコロナの間は中止になっている。現在もコロナが流行しているのでもまだ、再開していない（面会の制限を緩和したので）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イキイキサロンの内容によってはオレオレ詐欺などの勉強会などは中止になっている。	新型コロナ5類移行に伴いコロナ状況を判断しながら、会議を対面式で開催し、利用者代表や家族代表、区長、民生委員、市職員の参加を得て2ヶ月毎に開催している。ホームの運営や利用者状況、行事の説明を行い、参加委員からは意見や質問、情報等の提案を受けて話し合い、ホーム運営や業務、介護サービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新等、レベルの変化が少ない方やコロナの関係も継続にしたりしてはと助言している	高田町の3グループホーム管理者と行政職員、民生委員が集まり、高田町グループホーム協議会を設立し、年6回会議を開催し、それぞれの立場から意見や情報交換を行っている。運営推進会議に行政職員が出席し、ホームの現状を伝え、質問や意見、情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠せず散歩の時など、時に玄関より出て田植えの様子を見たり「早かった、あっという間に終わった」等話される 最戸ルールも四点施行する方は家族に了承を得ている。	身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束のない介護が出来ているかの確認をしながら利用者が安心して暮らすことの出来る環境整備に取り組んでいる。8時45分から9時15分に行われる夜勤者と日勤者の申し送り時に身体拘束規定の確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活の中で言葉使いも虐待に繋がること等にも注意し心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	息子さんが後見制度を利用し入居前に契約された商品購入を断られたりした事もある	成年後見制度に関する内部研修を実施し、職員が制度の重要性を理解し、利用者や家族から制度について相談があれば、内容や申請手続きの方法を説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整えている。過去に制度を活用していた利用者がいたので、職員はある程度制度について理解出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、理解が難しい時は丁寧に説明するように心がけている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域から農業や畑をしている方が多いので庭に出られる環境を喜ばれる	職員はホームでの日常会話から利用者の意見や要望を把握している。コロナ状況を判断しながら家族面会を緩和し、電話でも家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。利用者の写真満載の「なかま新聞」を毎月家族に送付し、ホームでの暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	旅行なども都合がつく限り行けるようその為人の時も出来る限り勤務する様にしている	申し送りノートに利用者の変化や報告事項を記載し、毎日閲覧して職員間で情報の共有に取り組んでいる。管理者は、朝の申し送りや日常業務の中で、気軽に職員の意見や提案を聴く機会を設け、出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の時は一生懸命一生働いてケ他の人にも協力し、互いに助け合って自らも働いてもらっている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	意欲がある方、仕事に対する情熱で、年齢や性別の区別はしていない	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先して採用している。職員の希望休(月4日)や、それぞれの事情を組んだ勤務体制を確立し、働きやすい職場作りに取り組んでいる。また、外部研修受講や資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける就労環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	一度成人として、その後認知症になっており一人の個人として尊重し尊敬の念をもって接する	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意して、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、「いきいきふれあいサロン」に出かけ、認知症の啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力や介護の力量に合わせて研修を受けてもらっている伝達研修など行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高田町グループホーム連絡協議会もコロナ感染が拡大して現在中止しているが再開したい		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	畑仕事好きな人、花が好きな人、塗り絵が好きな人、それぞれの希望に添えるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居中に結核菌があることが判り専門病院に入院。そこで転倒した方が現在も入居希望が強うれしく思っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者希望の時、不整脈があったので訪問診療を受けているがその方は循環器のDr.がいいので受診している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ストーブを使った料理を教えてもらい施設で作って美味しかったとお礼を言って喜んでもらっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナが5類になって面会を緩和したらコロナ感染者がでた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ母校の方がその学校の先生をしてあった事から校歌を時々歌ったりして懐かしがられている	新型コロナ5類移行に伴いコロナ状況を判断しながら、地域の「いきいきふれあいサロン」に参加している。親しい人との電話の取り次ぎや、話題を挙げて会話を楽しむ等、ホーム入居で馴染みの人間関係や地域社会との関わりが、途切れないよう支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	廊下散歩の時、学校の先生であった事を利用して多くの方に参加してもらっている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	パーマ屋さんが娘さんなので、今もカットに来てもらっている紹介もしてもらった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで一生懸命に働いてきたので老後はゆっくりしたいと思っていると殆ど入床され歌いたい時は時々参加される	職員は会話しながら利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で共有し、利用者一人ひとりを尊重した暮らしの支援に取り組んでいる。花が好きな方の為に花壇を整備し、実の生る木を植えて収穫し、枇杷や無花果、グミを食べる事を楽しみ、畑には季節の野菜を植えて、自分らしさの継続と心から笑える暮らしを支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	学校の先生がおられ、掛け算などはされないが採点など動いてもらい、自尊心に繋げている		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	女性ばかりなので、ニラ揃えやねぎ揃え等全員にして頂き、多い時はスタッフももらってかえってもらっている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、問題が生じた時は、ミーティングを開き全体で意見を出し合っている又、入歯も一年以上なし髪も何年も切らない方が、絵が上手なのでみんなではめる事により髪も切られ笑顔も見受けられ今では他の「人が帰ると言っていると帰らんでよかやんねここがよからうが」と言ったりされる	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、ケアプラン作成時に担当者会議の中で話し合い、ADL状況を記録し、担当者会議の中で検討し、利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。利用者の状態変化に合わせて、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の些細な行動や言動も記録するようにし、申し送り時に報告して介護計画に生かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入床したり入眠しているとき以外は面会してもいいようにしているが、今はコロナの為窓越しの面会や携帯の動画を送ったりしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	玄関にいたとき、隣組の方に冬瓜、メロンの苗を頂きそれを一緒に植えたりしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近が高齢化したこと、家族が磯がいいこともあり訪問診療にしているが不整脈のある人は循環器のかかりつけのDr.に受診している	入居前に利用者や家族と話し合い、希望を優先して主治医を決めている。現在、全員が往診体制が整った提携医療機関医師が主治医であり、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚科は受診しているが歯科は訪問診療を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナから面会はなかなか出来ない		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの指針などを作成して細やかに説明している	契約時に、看取りに関する指針を基に重度化や終末期の方針について説明し、利用者や家族の希望を聴いている。利用者一人ひとり条件が違う為、利用者の重度化が進むと、改めて家族に意向を尋ね、方針を確認している。主治医と連携し、職員全員が一丸となって看取り介護に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最近コロナにかかった入居者の吸引が必要になっている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害などは消防団は消火のみで救出は庭の隅っこに寄っていると救出して頂く水害はどこもいっぱいなので青葉の施設へ避難する予定	防火設備業者の点検時に合わせて年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者を安全に避難誘導出来るように訓練している。非常時に備えて非常食の備蓄を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者より自室のモップをかけるので出して下さいと時間になると催促される事もある	利用者の尊重とプライバシーを守る介護の在り方を、職員間で話し合い、声の大きさや、あからさまな介護にならないように注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。職員は、人生の大先輩である利用者から、色々な事を学び、利用者を敬う気持ちを持って、ホームでの日々の暮らしを支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者より曇りの日は自分から防止や長くつなど履いて準備して、今日は草取りしますとかサツマイモ植え等される		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	塗絵が好きな方に、塗り絵やパズルなど「これにしますか」と尋ねるようにしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	素敵な洋服を着ている方に素敵ですねと褒めると、嬉しそうな顔を見せられる「どちらを着ますか」と尋ねるようにしている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮むきや食器洗い、食器拭きや台拭き等一緒に配膳もしている豆腐と大根の煮つけなど教えてもらい施行したらとても美味しかったので自宅でもしてみたスタッフがいた	調理担当職員が、庭の畑で収穫した新鮮な野菜を使った美味しい料理を提供している。利用者と職員と一緒に、じゃが芋や玉葱の皮むきや葱揃え等の下拵えや配膳、後片付けを行っている。また、お盆の迎え団子や干し柿作りにも取り組み、食を楽しむことが出来るよう支援を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の日差があり食べられるときは準夜勤帯に介護したりしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内ウェットを使用している人もある		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ排泄表を作成し、3時間たっても施行されない方は誘導している。又、排便は一度長くゆっくり座ってもらい、自然排便を心がけていたが認知症が進行すると歌詞がどうしても動かず傷がつくので大変なことが解った	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、利用者が重度化してもトイレで排泄の支援に取り組んでいる。室内散歩でしっかり歩いてもらい、立位訓練の時間を設けて下肢筋力の低下を防ぎ、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日廊下散歩をして腸運動を促したり、繊維食物を多く摂ったり、水分補給などの働きかけを心がけている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は比較的好きな方が多いのでスムーズに行っている	利用者の希望や体調に配慮し、入浴帳を付けて確認しながら週3回の入浴支援に取り組んでいる。入浴時には、全身観察を行い、湿疹や傷等がないか確認している。入浴を拒否される利用者には、時間をずらしたり、声掛けに工夫して対応し、無理な場合は、清拭や足浴に変更して清潔保持に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	廊下散歩や庭に出る所が便秘予防になっていると感じている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療になって報告するとすぐ対応してもらっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花が好きな方、塗り絵、ボールが好きな方、草取りが好きな方、いろいろあり対応できない時もあるので、草取り等は夕方時間外になる時もあるが門属されるので有難い塗り絵の方は、塗り絵が上手なのでほめる事により髪も切れ笑顔も出て来てある		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの関係で、以前のように外出できず、イキイキサロンもリハビリ体操的な体を動かすものには参加している	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら「いきいきふれあいサロン」に参加している。玄関から田植えの様子を眺めたり、敷地内の畑や花壇の手入れ、収穫を楽しむ等、戸外に出て利用者が気分転換出来る支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナになる前は道の駅で饅頭やアイスクリームを買って食べたりしていた。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯で現在の様子を送信したりしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を生けたり、トマトをベランダに置いて収穫したりしている	ホーム内には季節毎の手作りカレンダー、小物や生花を飾り、季節感や生活感を取り入れた家庭的な共用空間である。広い敷地の中に、無花果やサクランボ、アンズ等実の生る木を植え、畑には野菜を植え、花の好きな方のために花壇を造る等して、利用者がホームの中で、いきいきと楽しく暮らせる環境整備に取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	車窓から外を見たり「田植えの早かった」等散歩中に団欒している姿が見えず離れかと思すと、南の出口などに椅子を置いて座っている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は忘れていても、家具を見ると「ここは私の部屋」と言われて安心される	利用者が長年愛用していた馴染みのソファや筆筒、マッサージチェア等を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が自宅と違和感なく、安心して過ごせるように支援している。また、換気や清掃をこまめに行い、利用者が安心して穏やかに暮らせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掛け算やたし算の採点を付ける人など色々と掛け算の九九が書けなくても言える人など色々です		